

北理研だより

<169号 平成25年(2013年)11月15日 発行>

平成25年度北理研札幌支部秋季研究大会（プレ全国大会）

第2日【中央小会場】開催間近！

【中央小学校の学校課題】

不思議さ 巧みさ 美しさ ～高まる期待～

自然の事物・現象に働きかけた子どもが抱く不思議さを目標に高め、
北海道らしい自然や生命への迫り方を考えます

授業者

授業協力者（〇はチーフ）

3年「身近な自然の観察」 佐藤 寛子 〇佐々木 歩 松本 昌憲 山川 采華

「夏に見付けた虫は、冬になってもどこかにいるはず」子どもたちは、土を掘って虫を探します。
冬を目前に、虫たちが強くたくましく生きる姿に迫ります。

4年「季節と生き物」 小林 明弘 〇林 徳郎 澤橋 菜月 池野 義也

「草丈が伸びなくなった後も、成長を続けていたヘチマの実が枯れてきた」1年間の観察をもと
に、冬に向かって植物が変化の様子とその要因について考えます。

5年「ものとのけ方」 鏡 孝裕 〇澁谷 宣和 小林 琢 大坪洋一郎

「水の温度を上げて溶かしきったはずのミョウバンが、たった一晩で析出した」もう一度溶かす
ことはできないかと、経験を生かしてミョウバン水に関わります。

6年「水溶液」 近藤 大雅 〇畠田 雄介 南口 靖博 清水 雄太

「塩酸に溶かしたアルミニウムは、また取り出せるのか」取り出したものの性質について多面的
に調べ、溶かす前後の重さの違いを決め手に、質変化に迫ります。

11月29日(金) 13:30～

- ・詳しい時程については、2次案内をご覧ください。
- ・当日、資料代(1,000円)をいただきますが、いずれかの会場でお支払いいただいた方は3会場(円山小、中央小、二条小)すべてに参加可能です。
- ・円山小会場にて大会要項を受け取っている方は、当日ご持参ください。
- ・大会参加及び反省会出欠の変更は、岡 亨(澄川西小)へ連絡ください。
- ・12月6日(金)二条小会場終了後 合同反省会を行います。

【合同反省会】12/6(19:00～)甘太郎 すすきのアーバン店

〈事務局〉

北海道小学校理科研究会事務局長 村上 力 成 (南の沢小学校長)
〒005-0823 札幌市南区南沢3条2丁目18-1 TEL.571-1096 FAX.571-2769
e-mail rikinari.murakami@city.sapporo.jp

〈担当〉札幌支部広報次長 杉野 さち子 (山の手小学校)

中央小学校会場の現在の様子

秋季研究大会第2日が迫ってきました。そこで、中央小学校の現在の取組についてお知らせします。
《授業協力部会への取材内容》

1. 現在直面している問題点をお聞かせください。
(例) 細案のこの部分がどうにもしっくりこない。この教材のここにちょっと不具合が出るなど
2. その問題に対して、部会としてどのように取り組んでいるのか教えてください。
(例) 細案がすでにバージョン10だが、この部分の発問をやはりこうして…。教材のこの部分をもう少しこうすることで、子どもの関わり方がこんな風に変わってくるはず…など
3. 「だから、当日の授業は是非こんなところをこんな風に見てもらいたい」というお話で締めくくってください。(問題点や意気込みでもかまいません)

【3年部会】「身近な自然の観察」

初冬を迎えた時季の虫探しを行います。本時では虫探しの活動を2度行いますが、後半の虫探しでは、子どもの働きかけが季節の変化を意識したものになることをねらいます。このような気付きを生むためには、教師がどのように関わるべきかに重点をおいて検討しています。

また、当日が荒天の場合に、屋内でどのような活動を行うかも検討しているところです。虫たちの意外な強さ、たくましさを実感できる厳しい札幌の冬ならではの授業を目指します。

【4年部会】「季節と生き物」

会場校部会(10/21)では、中央小学校の子どもだったらという視点でたくさんお話をいただきました。現在の段階でへチマの実はまだ小さく、これから大きくなる実もたくさんある状況です。本時では、いくつかの実を開き、中の様子や種の状態を見比べる活動を通して、植物の季節に合わせた成長の工夫に迫る子どもの姿を生み出したいと考えています。当日に向けて、実の変化と季節の変化とを子どもが結び付けられる教師の関わりについて、再検討しているところです。

【5年部会】「もののとけ方」

本単元では、食塩とミョウバンの溶け方というシンプルな対象であるが故に、子どもがどのように事象に向き合い、追究していくのかを想定することの大切さと難しさ感じています。本時は、温度低下によるミョウバンの析出場面です。「温度を変えれば、水に溶けたり析出したりすること」だけではなく、「温度によって溶ける量の限度が変化すること」に目を向けていく展開を目指します。見える現象から見えない変化を子どもがどう捉えていくのか、発問を含め学習展開の検討を重ねています。

【6年部会】「水溶液」

本部会では、塩酸とアルミニウムの反応を追究し、物と物が反応し、物の質が変化することがあるという見方や考え方もつ授業を目指しています。反応前のアルミニウムの重さと、反応後に蒸発乾固して取り出したものの重さを比較すると何倍も違うことが決め手になると考えています。この事実を受け止め、見方や考え方を変容させていく姿を生むために教師はどのように関わるべきか、単元の細部について最後の詰めを行っています。また、子どもの思考に沿った板書の検討も行っています。

～11月29日(金)是非第2日中央小会場へお越しください。